

「こころの健康」について

一緒に考えてみませんか？

私 たちの健康を脅かすものとして、「がん」や「心臓病」などの生活習慣病に加え、うつ病や不安障害などの「こころの病気」があります。白石市の国民健康保険の医療費を見ても「こころの病気」(精神疾患)は、「がん」「腎疾患」に次いで第3位と自分にも家族にもいつ起きるか分からない身近な病気です。

我妻睦夫さん・むつ子さん夫婦は、自身がこころの病気と向き合いながらも、「同じ悩みを持つ仲間やその家族のために少しでも力になりたい」と、精神保健福祉士(精神に悩みを持つ方の相談業務などを行う国家資格)を取得し、サークルやサロンを主催するなど地域の支援に尽力しています。参加者からは「同じ悩みを持つ仲間

と話をする場ができた」といった声も聞かれるようになりました。「こころの病気」は誰にでも起きる身近なもの。では、「こころの病気」にならないためにはどんな事に気を付ければ良いのか？また、自分や家族が病気になってしまったら、どう病気と向き合っていけば良いのかを一緒に考えてみませんか？



「私たちと同じ悩みを持つ方々にも、少しでも楽しく人生を歩んでいってほしい」と話す我妻さん夫婦。自身もこころの病気と闘いながら、仲間やその家族のためにと尽力している活動を紹介しします。

■「白石晴風会」

心の病気を持つ方の自主活動として、平成21年4月から毎月1回活動。春の花見や秋の芋煮会といった季節に応じたイベントを開催するなど、気軽に参加しやすい雰囲気づくりを大切にしている。

■「サロン・ラポール」

心に悩みや病を抱えている方の憩いの場(サロン)として、平成27年9月から活動(要事前連絡)。

- 開催日時 月・水・金曜日 11:00~15:30
- 場所 七十七銀行白石支店駐車場隣(旧オリエントル、中町31-4)
- 参加費 200円(ドリンク代含む)
- ☎我妻睦夫 ☎080-6025-5149

~白石市・白石晴風会合同講演会~ 「こころの健康づくり講演会」参加者募集

参加
無料

白石市では、「白石晴風会」と合同で講演会を開催します。心の病気を持つ方やその家族、「こころの病気」に関心のある方など多くの方の参加をお待ちしています。一緒に「こころの病気」について考えてみませんか？

- 日時 2月25日(木)14:00~15:45
(受付13:30~)
- 場所 介護予防センター
(健康センター裏)
- 申込方法

資料の準備の都合上、2月23日(火)まで電話などで申し込みください(当日の参加もできます)。

☎健康推進課 ☎22-1362、白石晴風会(我妻睦夫) ☎080-6025-5149

白石の真田家 その一

NHKの大河ドラマ「真田丸」が1月から放送開始となり、皆さんもご覧になっていただくといいと思います。そこで真田家と白石に関するエピソードと関連する歴史遺産を紹介します。

今から401年前の大坂夏の陣では、大坂城周辺で激闘が繰り広げられました。伊達政宗の重臣の片倉小十郎の二代目、重綱(後に改名し、重長)が真田信繁(幸村)の軍勢と戦っています。その後、さまざまな理由により、信繁(幸村)の子どもたちが白石に身を寄せることとなります。

信 繁(幸村)の娘の阿梅が白石に来た理由は三つの説があります。

一つ目は、信繁(幸村)が、片倉重綱の武勇を見込んで娘を託したというものの。根拠は「老翁聴書」という古文書です。この古文書は、片倉家の景綱、重綱、景長の三代の事蹟を記した歴史資料です。その文書には、大坂城が落城する時、顔立ちのきれいな娘が、鉢巻姿で長刀を持ち、片倉重綱の陣の前に現れたとあります。この説は、毎年十月に行われている、鬼小十郎まつり、白石城歴史探訪ミュージアムの立体ハイビジョンの「鬼小十郎帰るに及ばず」のストーリーになっています。

二つ目は、大坂夏の陣の混乱の中、一時的に身柄を拘束された人員の一人として白石に連れてこられたというものです。これは片倉家の正式な記録である「片倉代々記」、長野県の真田家(幸村の兄の



▲「鬼小十郎まつり」のクライマックス

家系)の「真田家御事蹟稿」に記されています。「片倉代々記」によれば、当初、片倉家では誰の娘か分からず連れて来て、侍女として養っていました。後に真田家の旧家臣たちが白石を訪ねて来るようになって、真田幸村の娘であることが判明し、重綱の最初の奥さんが亡くなった後、後室(継室)になったとあります。三つ目は、阿梅が滝川家の養子になり、その後片倉家に嫁いだというものです。



▲當信寺にある阿梅と大八の墓

真

田家に最も縁りが深い場所は本町の當信寺です。山門から境内に入り、本堂の右手を通ると、本堂の裏にたどり着きます。コンクリート擁壁のそばに真田信繁(幸村)の娘である阿梅の墓があります。台座に乗った如意輪観音の石像があり、文字は彫られていませんが、阿梅の墓と伝わるものです。戦後、昭和二六年に公園用地拡張に伴い移転しています。阿梅は、大坂夏の陣の頃、十六か十七歳であったとする記録があり、天和元(1681)年に亡くなっていることから、八十歳を超える年齢まで生きていました。当時としては、かなりの長命でした。

その右隣には、片倉四郎兵衛守信(真田大八)の墓があります。阿梅の弟とされています。大八は、後に仙台藩士になっています。

阿

梅の妹である阿菫蒲も白石にきています。阿菫蒲は、福島県田村地方を治めた田村清顕の孫である定廣の妻になっています。定廣は、伊達政宗の妻である愛姫の命により、白石に招かれ、白石にきました。そして、片倉小十郎景綱の姉である喜多の名跡を継ぎ、片倉金兵衛と名乗りました。

定廣らは、愛宕山に墓地を設け、阿菫蒲の父である真田信繁(幸村)の墓を建立しました。墓石には文字は彫られておらず、自然石を使っています。この墓は一種の供養碑と考えられており、遺骨等は埋葬されていないと思われます。定廣とその子孫も同じ場所に墓を作り、一族の由来から田村家墓所と呼ばれています。田村家墓所は、白石市中心部から国道113号を小原方面に向かい、蔵本の滝ノ観音を過ぎ、左手に道路の突き当たり右手の山中にあります。入り口に説明板があります。



▲木々に囲まれた田村家墓所